

Ⅱ 国語科の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ・「大問・領域」には「読むこと」（文学的な文章と説明的な文章）「書くこと」「言語事項」を示した。「設問のねらい」には、小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の分析と指導のポイント」について

- ・調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示し、指導のポイントについては、今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点を示した。また、文末の「○ページ参照」は、次の3「領域別調査結果の考察と指導のポイント」の内容との関連箇所を示している。

3 「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

- ・大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。
- （※誤答例は、抽出生徒の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

大問・領域	小問	設問のねらい	観点別評価				
			関 意 態	話 ・ 聞	書 く	読 む	言 語
1 読むこと (文学的文章)	問1	文章の展開に即して、内容全体を正確にとらえることができる。				○	
	問2	登場人物の行動から心情を読み取り、説明することができる。			○	○	
	問3	表現に注意しながら文章を読み、登場人物の心情や人間関係をとらえることができる。				○	○
	問4	登場人物の心情の変化を読み取り、適切な表現を指摘することができる。				○	
2 読むこと (説明的文章)	問1	表現に即して、具体的な内容を読み取ることができる。				○	○
	問2	同音異義語の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができる。				○	○
	問3	表現に即して、内容を正確にとらえることができる。				○	
	問4	文章の展開に即して、内容を正確にとらえることができる。				○	
	問5	文章の内容を理解し、必要な情報を正しく読み取ることができる。				○	
	問6	表現に即して、文章の要点を正確にとらえることができる。				○	○
3 言語事項 (漢字の読み書き)	1～8	小学校6年生までに学習した漢字を正しく書いたり、読んだりすることができる。					○
4 言語事項 (漢字の読み書き以外)	問1	慣用句の意味を正しく理解し、適切に使うことができる。					○
	問2	文中から「主語・述語」の関係を正しくとらえることができる。					○
	問3	古文における文のまとまりをつかむことができる。					○
	問4	行書の書き方について正しく理解している。					○
	問5	場面や相手に応じて、適切な敬語を選ぶことができる。					○
5 書くこと (条件作文)		グラフから情報を正しく読み取り、自分の考えを適切に書くことができる。			○		○

2 調査結果の分析と指導のポイント

(1) 調査結果の分析

全体	◇言語事項の既習内容は、おおむね身に付いている。 ◆文章の展開に即して内容を正確に読み取ることや、文脈の中で語句の意味を正しく理解することに課題がある。
領域別	<読むこと> ◇文学的文章を、表現や情景描写に注意しながら読み、登場人物の心情や人間関係をとらえることができる。 ◆登場人物の行動から読み取った心情を説明することに課題がある。 ◆説明的文章の内容を理解し、必要な情報を正しく読み取ること課題がある。 <書くこと> ◇昨年度より無答率が下がり、書くことに意欲的に取り組む姿勢が見られる。 ◆読み取ったことを基に、自分の考えを明確に書くことに課題がある。 <言語事項> ◇小学校6年生までに学習した漢字の「訓読み」はよくできている。 ◇慣用句、主語・述語の関係、敬語についてはおおむね理解できている。 ◆漢字が表している意味をとらえ、文脈の中で語句として適切に使うことに課題がある。
継続課題	◆文章の展開に即して内容を正確にとらえること ◆文章の中から必要な内容を読み取り、条件に合わせて適切に表現すること ◆原稿用紙の正しい使い方 ◆漢字のもつ意味を理解して適切に使うこと

(2) 指導のポイント

<読むこと> ○内容や要旨を的確にとらえる力を身に付けるために、目的や意図に応じて図表や写真等が入っているような様々な文章を読む学習に取り組ませる。 ○文章から必要な情報を得る方法を身に付けるために、目的に応じて情報を取捨選択しながら読み、収集した情報を整理して考えを深める学習に取り組ませる。 ○構成や叙述などに基づいて文章を解釈する力を身に付けるために、文章の展開や表現に即して登場人物の心情の変化や筆者の主張を読み取る学習に取り組ませる。 <書くこと> ○目的に応じて書く力を身に付けるために、必要な情報を読み取り、課題や条件を踏まえて自分の考えをまとめて書く学習に取り組ませる。 ○伝えたい事柄を明確に伝える力を身に付けるために、書いた文章を吟味する学習に取り組ませる。 ○根拠を明確にして自分の考えを書きまとめる力を身に付けるために、教科を横断する内容を取り上げるなどして様々な場面で書く学習に取り組ませる。 <言語事項> ○言葉への関心を高め、豊かな言語感覚を身に付けるために、辞書（国語辞典・類語辞典等）を活用し、文脈の中における語句の意味を的確にとらえて活用する学習に取り組ませる。 ○既習内容の定着を図るために、3領域の学習を通して漢字、語句、文法事項を取り上げる。 ○使用頻度の低い漢字の習熟を図るために、漢字を語や語句として理解させ文脈の中で正しく使う言語活動を意図的に取り入れる。
--

3 領域別調査結果の考察と指導のポイント

領域別正答率(%)

H19

H20

H21

(1) - 1 「読むこと」【文学的文章】

全国学力・学習状況調査	83.6	70.5	78.1
さいたま市学習状況調査	52	63	63.1

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無答率	設定通過率
読むこと 文学的文章	1	問1 「タト兄ちゃんが説明した」とありますが、タト兄ちゃんはオキーちゃんに次のように説明しました。□□にあてはまる部分を本文中から探して、書き抜きなさい。 ＜僕が、水道管にまたがって川を越えようとしていたときに、後からきた山田さんが、□□きたんだ。僕は、さがってもらいたいと頼んだのだけど、聞いてもらえなかったからしかたなく僕が後ろにさがって、今渡り終えたら、山田さんが僕を生意気だといって突き倒してきたんだ。＞	向こう岸から水道管にまたがって進んで	・急に向かって～ ・よっさんが～ ・水道管にまたがって～		49.4	6.8	60
		問2 「小屋の前でもじもじしている」とありますが、なぜよっさん兄弟は、すぐに小屋に入らなかったのでしょうか。解答欄の「～から」に続くように二十字以上三十字以内で書きなさい。	けんかをした相手とまだ仲良くする気になれない（から）等	・オキーちゃんとの勝負に負けてしまった（から） ・オキーちゃんを恐れていた（から）		39.8	17.2	60
		問3 「クスリと笑ってしまった」とありますが、このときのハアちゃんの気持ちとしてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ア 不良がかったよっさんが実はかなりの弱虫だとわかってばかにする気持ち。 イ 不良がかったよっさんに抱きつかれたミト兄ちゃんを気の毒に思う気持ち。 ウ 不良がかったよっさんより自分の兄の方が強いことを誇らしく思う気持ち。 エ 不良がかったよっさんの意外な面がわかり親しみがわいてほっとした気持ち。	エ	ア		75.1	0.4	70
		問4 【④】に入る言葉として最も適するものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ア スッキリ イ ノンビリ ウ ションボリ エ ウンザリ	ア	イ		88.1	0.6	80

(単位：%)

結果の概要

1 資料文について

小学校2年生のハアちゃんは四人の兄たちと近くの川に遊びに来ていた。そこへ現れた不良がかった中学生「よっさん」とその弟は、水道管にまたがって川を越えようとしていた次兄に言いがかりをつけ、暴力までふるう。が、よっさんは長兄によって組み伏せられる。「降参」したよっさんだったが、仲直りには応じない。そのとき、突然の雷雨が起こり、一同は灰小屋に逃げ込む。気まずさを感じていたよっさんもみんなといっしょに雷を怖がったことがきっかけとなり、雷雨とともにわだかまりが消えていく。

異年齢の子どもたちが集団で川遊びをしたり、ささいなめごとがあったりする情景描写が、同年代の生徒の関心を引く。登場人物の人物像や人間関係、心情の変化などについて、自分の経験や意識と結び付けて読み進めることができる作品である。

2 設問ごとの結果

【問1】 後から登場した長兄「オキーちゃん」に、タト兄ちゃんが説明する状況の一部を答える問題である。「書き抜く」という指示なので模範解答以外は不可である。誤答は、 unnecessary 「よっさんが」を入れたもの、必要な「向こう岸から」がないものなどがあつた。過不足なく解答しているかどうかを見直すことが必要である。

【問2】 けんかをして仲直りをしていない相手の好意を素直に受けることができない状況と心情について読み取る問題である。よっさんの心のうちにある「わだかまり」を表す心情が書けているかどうかポイントであるが、「けんかに負けた（から）」など状況のみで心情まで触れていないものが多かった。また、記述式の解答であるため無答率が高かつた(17.2%)。

【問3】 「クスリと笑う」は、けんかをした両者が仲良くなっていく過程の好意的な笑いである。比較的よく読み取れていた。「ア」を選択した誤答は、「弱虫だ」という事実のみとらえ、登場人物の人物像や人間関係を適切に読み取っていない。

【問4】 情景描写が登場人物の心情と深く関わっていることに気づき、登場人物の心情の変化を読み取る問題であつた。正答率は88.1%でよくできていた。

指導のポイント

○問題の趣旨を正確に読み取り、指示や条件にしたがって適切な表現で書き表そうとする意識をもたせる。

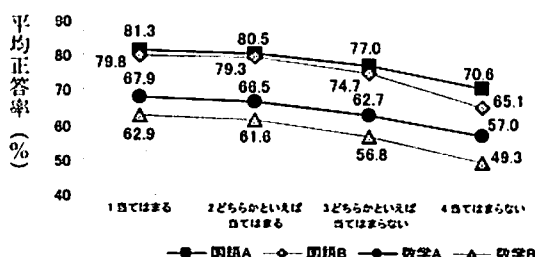
【参考資料：平成21年度全国学力・学習状況調査「生徒質問紙調査」さいたま市の結果より】

このグラフは、標記調査における回答状況と教科の平均正答率との関係を示している。

「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という質問に対して「1 当てはまる」「2 どちらかと言えば当てはまる」「3 どちらかと言えば当てはまらない」「4 当てはまらない」と回答した生徒のそれぞれの平均正答率を国語・数学のA問題（知識）、B問題（活用）に分けて表した。どの科目においても、1と回答した生徒の平均正答率と4と回答した生徒の平均正答率では10ポイント以上の差が出ている。

国語の授業では、様々な資料から読み取ったことをもとに自分の考えをもち、それを伝え合う学習活動の充実が望まれる。それが確かな学力につながる事が調査結果からわかる。

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



(1) - 2 「読むこと」【説明的文章】

領域別正答率(%)

H19

H20

H21

全国学力・学習状況調査	87.0	64.3	71.9
さいたま市学習状況調査	76	52	54.3

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無答率	設定通過率		
2 読むこと 説明的文章	問 1	「そのありがたさ」とは、どんなことに対する「ありがたさ」を言っているのでしょうか。解答欄の「～こと」につながる部分を本文中から二十五字以内で探し、書き抜きなさい。	六月から九月までは植物が猛烈な勢いで繁茂する	・日本では切っても切っても木が生えてくる ・自然が豊かだったからなんとか食べてこられた		45.3	12.1	65		
	問 2	「タイショウ」を漢字で書いたときに適するものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ア 対象 イ 対称 ウ 対照 エ 大将	ウ	ア イ		28.9	0.8	70		
	問 3	「丈夫な」とありますが、ここではどのような意味で「丈夫」という言葉を用いているのでしょうか。適するものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ア 国土の七割が森林であるという意味。 イ 病気になったり枯れたりしないという意味。 ウ さまざまな自然環境に順応するという意味。 エ 切っても切っても木が生えてくるという意味。	エ	ウ イ		56.4	0.9	70		
	問 4	文章中に出てくる「人工林」「雑木林」「照葉樹林」「自然林」を、A「人間の手が入っているもの」とB「人間の手が入っていないもの」とに分類したとき、正しい組み合わせになっているものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ア A「人工林」「雑木林」 B「照葉樹林」「自然林」 イ A「人工林」「照葉樹林」 B「雑木林」「自然林」 ウ A「照葉樹林」「自然林」 B「人工林」「雑木林」 エ A「雑木林」「自然林」 B「人工林」「照葉樹林」	ア	イ		47.7	1.5	60		
	問 5	「このサイクル」とありますが、「里山のサイクル」を次のような図に示しました。 <table><tr><td>a</td><td>b</td><td>c</td></tr></table> に適する語句を本文中から探してそれぞれ書き抜きなさい。	a	b	c	a 燃料 b 落ち葉 c 切り株	・落ち葉 ・切り株 ・燃料 ・下草 ・ひこばえ ・薪や炭		71.2 66.5 46.7	9.3 10.9 10.7
a	b	c								
	問 6	「日本人と自然とのつきあいは密接だった」に適するものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ア いくらでも木を切ることができ、経済力をあげてきたこと。 イ 木の成長に合わせて、手を入れ、雑木林を利用すること。 ウ 自然には手を入れないで、豊かな照葉樹林を育ててきたこと。 エ 自然林を増やして、人工林を減らすために、努力していること。	イ	ウ		71.6	2.2	65		

(単位：%)

結果の概要

1 資料文について

自然環境が豊かな日本には、かつて多くの「里山」があった。農家や田畑に囲まれた雑木林である里山を維持するために、日本人は自然に手を入れながら、自然と上手につきあってきたことが紹介されている。この文章では、里山の生態系がどのようにして維持されてきたかということが詳しく説明され、現代においてもこれまで同様、人間が自然に手を入れることの重要性を説いている。

「雑木林」や「照葉樹林」などは、里山が少なくなった都市で生活する中学生にとってはなじみが薄いかもしい。しかし、段落構成も分かりやすく論理的に展開する文章なので、キーワードや要点をおさえながら興味をもって読み進めることができる文章である。

2 設問ごとの結果

【問1】 「その」という指示語があるにもかかわらず、指摘箇所より後の部分から書き抜いているものが少なかった。文章の内容や構成を考えずに、「人間にはありがたくない」や「ありがたい環境」という言葉にとらわれたと考えられる。また、「書き抜きなさい」という指示が守られていないものも多かった。

【問2】 「中国とはタイショウ的」の「タイショウ」に当てはまる漢字を選ぶ問題である。この同音異義語は1年の教科書「漢字工房」で出てくるが、28.9%と正答率はかなり低かった。誤答のほとんどは「対称」である。「対照」は認識が低く、「対称」は数学で出てくるなじみのある言葉だったと思われる。

【問3】 「丈夫な」が表す具体的な内容について答える問題だが、選択式であるにもかかわらず正答率は56.4%と低めだった。この部分の表現には「すでに、述べている」というニュアンスがあり、そのことを踏まえると第1段落にもどり、該当する部分を見つけ出さなければならない。しかし、生徒は指摘されたあたりだけを読んで答えようとする傾向が見られる。

【問4】 「人工林」「自然林」は、その言葉のもつ意味から「人間の手が入っている」か否かは容易に理解できるが、「雑木林」「照葉樹林」については、文章から正確に読み取る必要がある。「雑木林＝自然林」という自分のイメージでとらえたと思われる誤答が多かった。

文章を読む際に自分の知識や経験を理解に役立てることは大切だが、思い込みや感覚が先行して内容を正確に読み取ることの妨げとならないように注意させる必要がある。

【問5】 「里山のサイクル」を表した図の空欄に適する語句を文中から書き抜くという問題である。3問とも無答率が約10%で、文章と図のかかわりが理解できていないと考えられる。昨年度も、要約文の空欄への適語補充で正答率が低かった。文章の内容を整理して、まとめることに課題が見られる。

【問6】 「日本人と自然とのつきあいは密接だった」が表す内容を選択する問題である。指摘箇所は文章の最後なので、全体を貫く筆者の主張について読み取っていることがポイントである。正答率は71.6%でおおむね理解していると考えられるが、ウを選んだ誤答は、筆者が主張する「人間が手を入れて照葉樹林になることを防ぐ」という内容をつかめていないと考えられる。文章の展開に即して、筆者の主張を読み取ることが大切である。

指導のポイント

- 指示語やキーワードを頼りにした論理的な読み取り方を身に付けさせる。
- 常に文脈における語句の意味を考えさせ、同音異義語のような言語事項の定着を図る。
- 文章から取り出した情報を自ら整理していくような読み方を身に付けさせるために、表や図にまとめる活動を取り入れていく。

(2) 「言語事項」

領域別正答率(%)

H19

H20

H21

全国学力・学習状況調査	82.6	76.3	78.4
さいたま市学習状況調査	70	85	71.4

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無答率	設定通過率
言語事項	1	興味がハンゲンした。	半減	反減、半源		54.1	19.4	65
	2	菓の <u>コウカ</u> があらわれる。	効果	郊		67.1	14.9	70
	3	客を家に <u>マネ</u> く。	招	訪、紹		61.5	22.3	70
	4	荷物を <u>アズ</u> ける。	預	頂、賃、務、傾		45.6	20.3	70
	5	<u>沿道</u> でマラソンを見学する。	えんどう	せんどう、そいみち		53.5	16.2	85
	6	日本列島を <u>縦断</u> する。	じゅうだん	おうだん		54.0	7.8	70
	7	0を除くすべての整数。	のぞ	はぶ		93.4	2.3	85
	8	紙を細かく <u>刻</u> む。	きざ			95.6	1.8	70
漢字の読み書き以外	問1	マサオ君は、野球部の練習試合で大差で負けたことを日記に書くときに、「相手が強すぎて勝負にならなかったようす」を慣用句で表すことにしました。マサオ君が用いた次の慣用句の□にあてはまるからだの一部を表す漢字一字を答えなさい。 □ が立たない	歯	腹、足、目		81.2	3.8	85
	問2	次にあげる文中、「 <u>話した</u> 」の主語にあたる文節をア～ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。 ＜親友の ^ア 美咲は目を輝かせて教室に飛び込んでくると、学校に来る途中で ^イ ツバメが巣を作っている場所を ^ウ 見つけたと興奮気味に ^エ 話した。＞	ア	イ		78.6	1.9	60
	問3	次にあげる文章は、「竹取物語」の冒頭部分です。いくつの文からできているか数を答えなさい。 ＜今は昔竹取の翁といふものありけり野山にまじりて竹を取りつつよろづのことに使ひけり名をばさぬきの造となむいひける＞	3 (三)	2、4、5、6、 7、8、13、15、 26、		50.9	3.5	65
	問4	次の漢字は行書で書かれて います。この漢字を楷書で書いたときの総画数として正しいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 録 ア 十四画 イ 十五画 ウ 十六画 エ 十七画	ウ	エ、イ		79.4	0.9	75
	問5	小学校六年生の時の担任の先生に、同窓会の計画をしていることを伝えるときに、次のように言いました。□にあてはまる言葉を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 「小学校六年生の時のクラスで同窓会をやろうと考えています。 くわしいことが決まりましたら、□。」 ア 連絡されます イ 連絡いたします ウ 連絡なさいます エ 連絡いただきます	イ			95.7	1.0	85

(単位：%)

結果の概要

1 設問の意図

漢字の読み書きは、小学校で学習した「学年別漢字配当表」の中から8題を出題し、その定着をみた。また、語句・語彙については、日常生活で用いられる慣用句をはじめとして中学校1年生までに学習した文法等の既習事項を中心に出题した。

なお、今回は平成19・20年度全国学力・学習状況調査（中学校3年生対象）の問題より4題出題した。本調査と実施学年は異なるが、中学校1年生までの既習事項の定着を比較する。特に、[4]問4・問5は、さいたま市の正答率が全国を下回っていることから全く同じ問題を出題し、継続した課題と考えられるか検証を試みた。

2 設問ごとの結果 [3] [4]

[3] （漢字の読み書き）について 〈正答率 65.6%〉

1〔半減〕誤答として、旁のハネがないものや「冫」の形が正しくないものなどがあつた。また、無答率が19.4%と高めであつた。平成19年度全国学力・学習状況調査におけるさいたま市の正答率は67.6%で、本調査結果より10ポイント以上上回っている。学年が進むにつれ語彙として定着すると考えられる。

2〔効果〕「効」は、読みが同じで字体が似ている「郊」の誤答が目立った。

3〔招く〕誤答の多くは「紹」である。また、手偏の「はね」ができていないものが多かつた。無答率22.3%は、漢字の読み書きの中で最も高かつた。

4〔預ける〕正答率は、45.6%で様々な誤答があつた。

5〔沿道〕「せんどう」「そいみち」という誤答が多かつた。

6〔縦断〕誤答の半数以上が「オウダン」である。日本列島の地形から考えても「縦（たて→ジユウ）」が適切だと判断すべきだが、それぞれの漢字のもつ意味を考えて区別することが不十分で、「オウダン」が「横断歩道」などで耳（あるいは「見」）慣れていると考えられる。

[4] （漢字の読み書き以外）について 〈正答率 77.1%〉

問1〔慣用句〕「歯が立たない」日常生活でよく使われる語句なので、理解できている。

問2〔言葉のきまり〕主語にあたる文節を答える問題で、「ツバメが」と誤りやすいが、正答率は78.6%で、理解できている。

問3〔古文〕平成20年度全国学力・学習状況調査では、「竹取物語」の冒頭部分の一部に句点をつける問題で、正答率は88.9%だった。本調査結果は、50.9%で大きく下回った。誤答をみると、「文」を「文節」と認識したのか、問題の趣旨が理解されていないと考えられる。

問4〔行書〕平成19年度全国学力・学習状況調査における同問題のさいたま市の正答率は77.2%で、本調査79.4%が2.2ポイント上回っている。行書の特徴的な書き方である画の連続について理解できている。

問5〔敬語〕平成19年度全国学力・学習状況調査における同問題のさいたま市の正答率は88.3%で、本調査95.7%が7.4ポイント上回っている。小学校の既習事項である敬語の基本的な使い方について理解できている。

指導のポイント

○漢字や語句の指導では、辞書を用いた学習活動の場面を取り入れ、言葉に対する意識を高めながら着実に語彙が豊かになるような学習を図っていく。

（例）意味を調べるだけでなく、用法や用例にも注意させる。

語句の意味を踏まえて、短文を作らせる。

他教科の学習や日常生活の中でも、習得した漢字や語句を積極的に使わせる。

(3) 「書くこと」

領域別正答率(%)

H19

H20

H21

全国学力・学習状況調査	74.3	59.1	67.9
さいたま市学習状況調査	66	72	59.7

大問・領域	小問	問 題	正 答	主な 誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無答率	設定通過率
大問・領域	5	次のグラフは、平成十八年にさいたま市で実施した「小・中学校意識・生活実態調査」における「家の人と話をしていますか」という質問の回答について表したものです。						
		このグラフから読み取れることを一つあげ、それに対する自分の考えを後の注意に従って書きなさい。						
書くこと	条件	【注意】 ① グラフから読み取れることは、必ず小学5年と中学2年を比べて書くこと。 ② 原稿用紙には題名、氏名を書かず、本文より書き始めること。 ③ 原稿用紙の正しい使い方を守ること。 ④ 十行以上で書くこと。 (十五行で書ききれなかった場合は、欄外に書いてもかまいません。)				59.7	4.7	70
作文								

家の人と話をしていますか

学年	よくしている	ときどきしている	あまりしていない	全くしていない
小学5年	82.4%	14.1%	2.7%	0.8%
中学2年	57.7%	31.6%	8.2%	2.5%

☐ よくしている

☐ とさどさしている

☒ あまりしていない

☐ 全くしていない

(単位：%)

結果の概要

① 資料について

平成 18 年度にさいたま市で実施した「小・中学校意識・生活実態調査」における「家の人と話をしていますか」という質問の回答を表したグラフから読み取れることを一つあげ、それに対する自分の考えを書く問題である。グラフから中学 2 年は、小学 5 年に比べると「よくしている」の割合は減っているものの「ときどきしている」を合わせると約 9 割が家の人と話をしているということがわかる。同学年である生徒たちは、その状況や要因について自分の意識や生活と照らし合わせて考えることができる課題である。

② 出題の意図

グラフから読み取れることは、「必ず小学 5 年と中学 2 年を比べて」という注意があるので、片方のグラフについてのみ述べているのは、誤答となる。また、「小学 5 年と比べて〇%少ない」と数値などをあげて比較していても、その状況や要因について自分の考えを示していないものは誤答である。与えられた資料等から情報を正しく読み取り、それに対する自分の考えを明確にもち、条件に即して文章を書く力が望まれる。

③ 結果の概要

無答率は昨年度（7%）より下がり、書くことに取り組む生徒が増えたことが確認できる。一方で、正答率は、昨年度の 72% を 10 ポイント以上下回る結果となった。それは、グラフから読み取ったことは書けているが、それに対する自分の考えを書くことができていないという誤答が多かったためである。また、単にグラフを見た「感想」にとどまり、「自分の考え」として主張や根拠が不十分なもの、グラフから読み取ったことが具体的でないもの、小学 5 年と中学 2 年の比較がないものなどの誤答が多かった。

原稿用紙の正しい使い方については、昨年度と同様に次のような課題がみられる。

<表記上の誤り>

- ・書き出し、段落の一字下げができていない。
- ・既習の漢字が正しく使えていない。
- ・「 」や句読点を正しい位置に書いていない。

<表現上の誤り>

- ・「～いるんだ」「じゃない」「～してる」等、話し言葉の使用
- ・「私が思ったことは、～思いました。」等の文中の語句の係り方や照応の仕方の乱れ
- ・文体の不統一（敬体と常体の混在）

指導のポイント

- 複数の資料を比較してその共通点や相違点を整理しながら、自分の考えを書きまとめる活動を充実させる。また、自分の考えが第三者にうまく伝わるように根拠を明確にすることを意識させる。
- 書いた文章は必ず推敲するという意識を高めさせ、「読み返し」や「書き直し」の習慣化を図る。
- 原稿用紙の正しい使い方は小学校の既習事項だが、機会を見つけ繰り返し指導していく。